

ニシキギ科 ニシキギ属

コマユミ (小真弓)

Euonymus alatus (Thunb.) Siebold var. *alatus* f. *striatus* (Thunb.) Makino

自生環境

山林

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



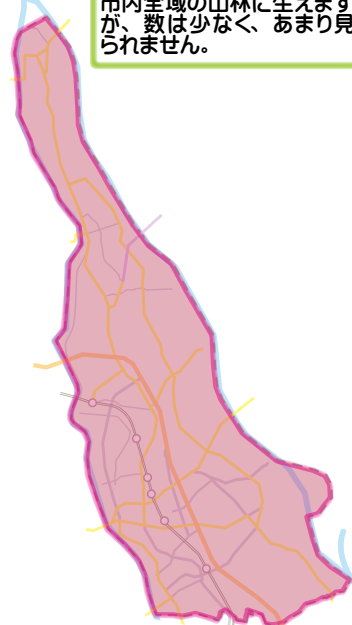
林の縁に細々と生えているため、アレチウリなどの外来種が繁茂すると大変です。また、笹の繁茂や過度な伐採、山林開発などもコマユミにとっては重大な脅威となります。

特徴

- ☆ ニシキギの品種で、枝にヒレがつかないものを言います。小さな樹木で、樹高はせいぜい 3m 程度。幹もあまり太くなりません。山林に自生しますが、背の高い樹木に覆われてうっそうとした林内というよりは、比較的明るい林縁環境を好みます。
- ☆ 枝のヒレが無いこと以外は、ニシキギとほぼ同じです。5~6月頃、直径 7mm ほどの黄緑色の花を咲かせます。花びらは 4 枚、雄しべは 4 本、雌しべは 1 本です。その後丸い果実ができ、熟すと皮が開いて、中から鮮やかな朱色のタネが 1~2 個、顔を出します。タネは落ちず、果皮にくっついたままとなります。
- ☆ 晩秋になると葉が赤く色づき、冬は落葉します。紅葉の色は、ニシキギが目がチカチカするほど鮮烈なものなのに対し、コマユミはやや控えめな色彩のことが多いものです。

市内の分布状況

市内全域の山林に生えますが、数は少なく、あまり見られません。



名前はマユミだけど...

マユミ (真弓) も、ニシキギ科ニシキギ属に分類される樹種で、市内の山林環境で比較的普通に見られます。コマユミは小さなマユミの意味で、名前だけ聞くと、マユミの一種と勘違いしてしまいそうですが、じつはニシキギの一品種です。ニシキギと異なり、枝にヒレがないため、花の無い時期の枝ぶりは、確かにマユミっぽくも見えますが、花や果実はまさにニシキギそのものです。



花びらは 4 枚で薄い黄緑色

果実は熟すと割れて、真っ赤なタネが 1~2 個ぶら下がる



枝にはヒレがない

葉は楕円形で先がとんととがる



枝は茶色いヒレが目立つ

花や果実はコマユミと同じ

母種

ニシキギ



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

